

レアリからの東北支援のメッセージ

— 「Hey Iccho Agali ! (コード・トランスポーザ)」のリリースに寄せて 2012.3.11 —

「Hey Iccho Agali ! (コード・トランスポーザ)」のご使用、誠に有難うございます。
この度、この「Hey Iccho Agali ! (コード・トランスポーザ)」を、東日本大震災からちょうど 1 年の 3 月 11 日にリリース出来たことは、株式会社レアリにとって大きな意義のあることと考えています。その主旨をご理解の上この無料版をご利用いただきたく、メッセージを用意致しました。以下の目次のタイトルをクリックするとその部分にジャンプしてお読みいただけます。

目次

1. 主旨ならびに開発の経緯.....	1
2. これからの開発計画.....	2
3. 将来の活動計画に向けて.....	2
4. 謝辞.....	2
5. 「Hey Iccho Agali !」のネーミングについて.....	2
6. お願い.....	3

1. 主旨ならびに開発の経緯

1 年前にテレビで報道される震災の映像を見て、そのすさまじさに驚愕する共に、被災された方々のことを思い心の痛む日が続きました。企業として、個人として、このことにまた被災された方々に、何をどのようにしなければならぬのか、何ができるのか、考えさせられていました。そのような中で、神戸で阪神淡路大地震を経験した友人から、支援のスピードの必要性和同時に継続性が強調されたことがヒントとなり、株式会社レアリでソフトウェアを開発、販売してその一部を被害者支援、復興支援に提供することで、長期的な支援が可能となるであろうと考え、開発計画ならびに展開計画を練り始めました。まず、開発するソフトウェアはコード楽器の初心者、アマチュアバンド、ミュージシャン、音楽愛好家といった方々を対象とするコード・トランスポーザとすることに決定しました。この決定は、レアリの代表者の木村が大の音楽好きで、決して途中で諦めることがない開発対象品であり、世の中で好まれるこの種のソフトがあまり存在していないという点にありました。いろいろと機能について多くのものを盛り込んだものを検討して開発を開始しましたが、かなり時間が掛かりそうなこともあり、まずは出来るだけ早い時点で無料版のビギナー用ソフトウェアを完成させ、リリースすることでソフトウェアの認知度を図ると共にその反応を有料版に反映させようと考え、開発スケジュールを調整し、無料版を最小限かつビギナーに十分な機能とすることで、リリース日を死守致しました。また、音楽は世界共通の言語ですから、各言語版を作成することで、世界中からの支援が可能になるのではないかと考えています。特にこの無料版は、もっと多くの方々に音楽を能動的に楽しんで欲しい、と

という願いが込められている、楽器の種類を選ばないコード譜ツールです。さらに楽器業界においても需要創造活動や潜在化している楽器愛好家の需要喚起に対して一役を果たすことができればと考えています。開発の期間中に多くの方々から、アドバイスを戴いたり、被災支援に関する情報を戴いたりして、将来のことをいろいろ考えながら開発作業を行うことが出来ました。それらの幾つかは、4. の謝辞の中で紹介させていただきます。また、日本語版のこのソフトウェアの名称は、移調による煩わしいコードの変更が簡単に行えることを強調した親しみやすいネーミングとして付けられました。

2. これからの開発計画

これからは、無料版をベースに機能アップを図った有料版のリリースに向けて開発を進めてまいります。また、無料版で作成されたデータは有料版で使用できるようにし、有料版で作成されたデータは、無料版で表示や印刷が可能なデータは、無料版で使用できるように考えてまいります。各言語版や有料版のリリース情報を含む開発情報は株式会社レアリの HP で紹介してまいります。

3. 将来の活動計画に向けて

近い将来、株式会社レアリとは全く別に、ボランティア的な震災支援グループを創って、そのグループは政治活動や宗教活動等に偏りのない、また会計面を含め透明性を持った独立した運営がなされるようにと考えています。一言に支援といっても分野が多岐に渡りますから、またこのソフトウェアが音楽関連であることから、支援の対象を教育、文化、研究を中心とする分野に進もうと志す被災した子供達、特に親を失った子供達を中心として、支援していくことが出来ればと考えています。

4. 謝辞

株式会社レアリのコード・トランスポージャー・プロジェクトに対し、プロジェクトの構想、ソフトウェアの機能検討、スケジュール管理に関し、アイデアならびに多くの情報をご提供戴いたすべの方々、感謝を述べさせていただきます。大変有難う御座いました。今回の無料版のリリースまでの励みとなったことがらについて、幾つか紹介させていただきます。前出の友人でプロジェクトに対するアドバイスを戴いた青木 善伸様、フランスで震災のための支援活動を続けられている Mme Kyoko Kugawa – Albu 様、ボランティア活動に参加し、また被災者の楽器にまつわるエピソード等を届けてくれた小玉 裕志様、をはじめとする多くの方々のアドバイス、行動、情報に感動しながら、開発が続けられました。ソフトウェアに関しては、画家の AICO 様からイラストを提供して戴き、Ecocert-QAI JAPAN の取締役社長の Donald Nordeng 様 から英語表記のご指導を戴き、作曲家&ピアニストの永田 茂様 から音楽面と市場性に関する評価ならびにアドバイスを戴きました。これらのご協力は、次の展開に向けての意欲をかきたたせてくれる原動力にもなっております。その他多くの方々にご協力を戴きました。重ねてお礼を申し上げます。

5. 「Hey Iccho Agali !」のネーミングについて

単に、移調と一丁の音をかけただけなのですが、簡単に出来るということも強調したかったということもあります。「へいっ、一丁上がり」という言葉は、江戸時代の職人が使い始めたという江戸職人文化

を代表する言葉の一つで、現在も使用されていますが、このような日本文化を海外にも紹介したいという思いで、海外版に関しては「Hey, Iccho Agali! 」というタイトルにして、Iccho はイタリア語っぽくcを重ね、また Agali の表記は、社名の Reali と韻が踏めるように付けられています。

6. お願い

ソフトウェアの内容に関するご感想ならびにお問い合わせは、以下にご連絡願います。

reali@reali.co.jp

2012.3.11

株式会社レアリ 代表取締役
木村雅史